

ノーベル化学賞に下村氏

クラゲの蛍光タンパク発見 生命科学に不可欠道具

【ストックホルム8日共同】スウェーデンの王立科学アカデミーは八日、二〇〇八年のノーベル化学賞を、飛躍的に発展している生命科学分野で不可欠な「道具」となっている緑色蛍光タンパク質(GFP)の発見者で、米マサチューセッツ州在住の下村脩・元米ウツズホール海洋生物学研究所上席研究員(80)ら三人に授与すると発表した。

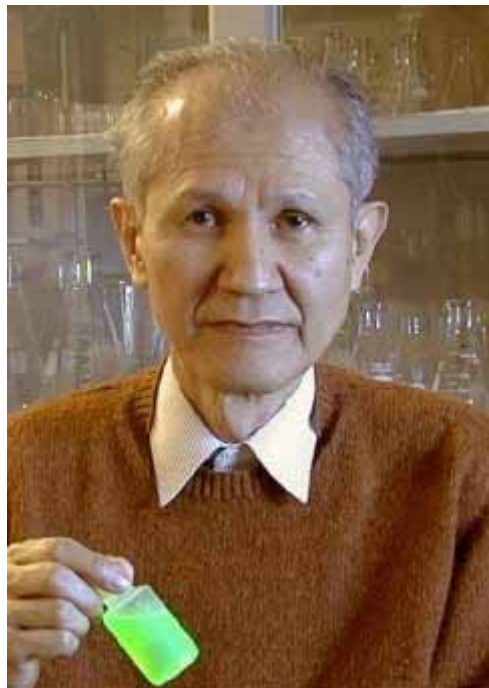
日本人のノーベル賞受賞は、七日に物理学賞受賞が決まった南部陽一郎・米シカゴ大名誉教授、小林誠・高エネルギー加速器研究機構名誉教授、益川敏英・京都大名誉教授の三人に続く快挙で、受賞者は計十六人となった。化学賞は〇二年の田中耕一・島津製作所フェロー以来で五人目。

授賞式は十二月十日にストックホルムで開か

れ、賞金一千万クローナ(約一億四千万円)が三人に与えられる。

GFPは紫外光を当てると、その光を吸収して緑色に輝き出すタンパク質。下村氏が渡米中の一九六一年、オワンクラゲから発見した。

GFPを作り出す遺伝子をほかの生物のDNAに組み込んで、特定のタンパク質が働けば緑色に光る「標識」のように使



下村脩氏

える。タンパク質の働きをきたまま可視化する道具として、生物学や医学、創薬など幅広い分野で利用されている。

下村脩氏(しもむら・おさむ)1928年8月27日、京都府生まれ。幼少期を満州、大阪などで過ごし長崎県諫早市へ。16歳で長崎に投下された原爆を体験した。51年長崎医大薬学専門部(現長崎大薬学部)卒。名古屋大の故・平田義正名誉教授の研究室で博士号を取得し、60年にフルブライト留学生として米プリンストン大へ。61年夏、ワシントン大フライデーハイパー研究所に滞在中に緑色蛍光タンパク質(GFP)を発見。63年名古屋大助教。その後プリンストン大に戻り、82年から2001年までウツズホール海洋生物学研究所上席研究員。ボストン大名誉教授。退職後は自宅で研究を続けている。米マサチューセッツ州在住。80歳。(共同)